

長野県革新懇ニュース

2016 年 5 月号
(発行日 5 月 10 日)
年会費 5000 円 (送料込)
振替 0510-3-15971

203

発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会
(長野県革新懇) 発行人: 山口光昭 編集長: 高村裕
〒380-8790 長野市県町 593 高校教育会館内
TEL: 026-234-1231 FAX: 026-234-2219 メール: takamura.hiroshi.nagano-h@educas.jp

==== 今号の紙面 ====

- 1 面 杉尾ひでやさんインタビュー
- 2 面 1 面の続き
- 3 面 難民危機に揺れる世界、内向きの姿勢を強める日本
憲法署名、有権者過半数まであと僅か
- 4 面 随筆「温故知新」、映画評論「家族はつらいよ」
読者の声、漢字クイズ



1957 年生まれ 兵庫県出身 長野市在住
1981 年東京大学文学部社会学科卒業 同年東京放送
(TBS) 入社 1993 年 JNN「ニュースの森」キ
ャスター 1998 年 JNNワシントン支局長 2004
年報道局社会部長、番組に多数出演
2015 年 12 月 31 日付で TBS 退社

将来世代に申し開きが できない事はしたくない

すぎお
杉尾ひでやさん

(参議院長野選挙区統一予定候補者)

絶対的権力は
かならず腐敗する

Q 立候補を決意するに至った経緯についてお話し下さい

そもそも長野県との繋がり。の原点は羽田孜さんなんです。91 年から 93 年まで政治部で記者をしていたときに担当していたのが羽田孜さんで、羽田さんは当時自民党竹下派だったんです。この竹下派が、金丸さんのゼネコンの闇献金をめぐる政治と金の問題をきっかけにして分裂していったわけですが、行きがかりで私は羽田グループを取材することになりました。羽田グループには北澤俊美さんや今は亡くなりましたが中島衛さんもおられました

た。取材をしていて、羽田さんが訴えていたのが政治改革でした。当時、自民党の 1 党支配が続いていて、55 年体制のもとで、社会党は確かに野党としてありましたが、政権交代という点では程遠い状況でした。羽田さんは、「およそ民主主義国家あるいは先進国の中で、こういう国はない。政権交代するのは当たり前。政権交代がなければ、絶対的権力はかならず腐敗してしまう。政治にはチェック＆バランスが必要だし、それが緊張感をもたらしことになるし、それが日本の政治を変える一番大事な部分なんだ」ということを訴えていて、それがすごく意識の中に残っていたんですよ。

そんな意識がずっと底流にあつたんですが、数年前からメディア・報道の仕事も 35 年になり、かなり惰性のような感覚が自分の中にあり、メディアの世界ではない形で、自分でもまだできることがあるんじゃないかと考えていたときに羽田さんを中心としたグループから選挙に出ないかという話がありました。しかも北沢元防衛大臣が勇退される長野県から・・・長野県で勝てなければ勝てる 1 人区がない、何としてここで勝ちたいんだというところで、そこで羽田さんの取材をしていた当時を思い出して、また、これまで全県で講演会をし、下伊那の高森町で市田柿の PR 大使を引き受け、去年も飯綱に行つて講師をしたご縁もありました。そこでお世話になつた信州人が好きだし、SBC との関係もありましたので、出るんだつたら本当の落下傘ではなく、もともとご縁のあつた長野県から出ようという思いはありました。

市民の皆さんの

動きが後押し

そんな中で、大きく後押ししたのが、去年の市民の人たちの動きですね。特に国会周辺の動きです。皆あれだけ安保法案に反対している、あれだけ一般の市民の皆さんが声を上げていて、これまでになかったことで、学生運動の頃とはまた違う、しかもそこにママの会などが加わり、さらに憲法 9 条を守れと言うグループがあり、そういう市民の皆さんが行動している姿を見てすごく刺激を受けました。

安倍政権の独走を

許してはならない

Q 野党共闘についてはどのようにお考えですか？

私にとつては有り難い思いでいっぱいです。野党の共闘、市民共同テーブルができ、私も感動したんです。が、こうした運動は日本の戦後民主主義の歴史の中ではなかったことです。今回の野党共闘って、市民の皆さんの後押しがあつたからですよ。そもそも立候補の決意の裏にあつたのは、市民の皆さんの動きですよ。共産党さんは選挙区の予定候補者を下ろされた。唐沢さんにも共産党にも敬意を表します。

とにかく今の自民党は強いでしょ。弱いものが強いものに勝つためには、とにかく弱いものが束になつてかかるしかないんですよ。ね。蟻と象とまでは言わないまでも、それくらい違いがある。自民党の支持率は、野党の支持率を全部足しても及ばないですよ。だけど、それに挑むのには目的がある。これ以上安倍政権の独走を許してはならないという目的があるわけです。

その目的を果たすためには過去の経過や立場を超えて共闘するしかない、小さいものは束になつてかかる

「弱い立場の人々に
光を」という思い

Q 生い立ちや報道関係をめざした理由、また、どんな活動やお仕事をされてきたのでしょうか？

私が生まれたのは、本当は北九州なんです。父親の本籍地が宮崎で、私もその本籍地に籍をおいています。僕が生まれてすぐに母親が亡くなったんです。が、父親は船乗りだったので、戦後の混乱期にパプアニューギニアなどに行っていました。しかし、大病して船乗りを続けられなくなったので、私がものごころのついた 3 歳の頃、九州から神戸に移ったんです。それから予備校までは明石市にいたので、出身は関西と言っています。ですが、もともとのルーツは九州です。

【2 面に続く】

